

えがお

子どもの笑顔を守るために

伊那警察署生活安全課長

中村 豊

本年六月、児童虐待で亡くなった五歳の児童が大学ノートに残したメモが報道された。そこには、「もうおねがいゆるしてゆるしてください おねがいします」などと悲痛な叫びが記されていた。



虐待による死亡事例は年間五十件を超えるという。一週間に一人の子どもが虐待で命を落としているということになる。

子どもにとって一番安全で安心できる場所は、家庭であり、一番信頼できる擁護者は両親である。両親から家庭内で虐待を受けた児童は、誰に助けを求めればいいのか。

先のノートには、ただただ両親に許しを請い、両親の望むとおりの行動を約束することが記されていた……。

私が子どもの頃は、子どもが悪いことをしたら叩かれて当然という時代であった。

悪さをすれば親に叩かれたし、学校で教師が生徒に手を挙げることも当然のようにあった。

当時のことを否定も肯定もするつもりはない。

ただ、しつけとして叩く行為は、叩く行為以上の相手の将来を心配する愛情と、叩く側の心の痛みが伴ってこそ許されたものであり、だから、相手を痛めつけるようなものではなく、子どもにも親の思いが伝わったのだと思う。

今は、しつけであっても、子どもへの暴力は身体的な虐待として扱われる。

本来、虐待としつけは、全く別のものである。

しかし、しつけという隠れ蓑を遣って、暴力を正当化しようとする輩がいるため、どんな理由であろうと暴力を看過することはできない。



平成30年度
No. 4
10月25日

伊那市
よりよい
教育環境
推進連絡会

子どもに対する愛情もなく、自分の言うことを聞かないというだけで振るう暴力はしつけではない。虐待以外の何物でもない。

しかしながら、虐待をする親の中には、子育てに悩んだ末にという人も少なくないと聞く。

自分の親と離れた場所に住み、頼る者もなく、テレビやインターネットで子育てに関する理想的な情報ばかりを耳にし、自分や自分の子と比較して、うまくいかないと思ってしまう。

周囲に相談もできず、鬱積された思いが子どもに向かう。

元々は子どものことを、その将来を心配し、改善したいという思いであったものが、暴力となって子どもに振るわれてしまう。

人は、一度外れてしまったたがを、なかなか元に戻すことはできない。

一度暴力を振るって子どもが言うことを聞けば、言うことを聞かなくなったらさらに強い暴力に頼ってしまう。

だから、児童虐待を防ぐには、周囲の見守る目や、児童虐待への理解がどうしても必要だ。

他人の家庭のことに口をはさむのは、誰しも気が引けるものである。

しかし、世の中でこれだけ児童虐待があり、虐待死という最悪の事態が発生している以上は、皆がお節介な人にならなければならない。

何事もなく、余計なお節介となったのであれば、それを笑って済ませるおおらかさも、虐待を遠ざける。

また、子育てに悩んでいる親御さんがいれば、誰かに相談してほしい。警察でも市町村でも、窓口はたくさんあるし、秘密は必ず守られる。

十一月は児童虐待防止推進月間である。子どもの笑顔が失われないう、警察官として何ができるか、人として何ができるかを、改めて考えてみたいと思う。



伊那東小学校

むつび合いつつ もろ共に

地域の方々に支えられて

伊那東小学校は、「かしこく やさしく たくましく」―笑顔が集い のび合う学校―を学校教育目標に、保護者・地域と連携して様々な教育活動に取り組んでいます。

【開校百二十周年記念行事】

明治三十一年十一月二十三日に開校式が挙行された伊那東小学校は、今年度開校百二十周年の節目の年を迎えています。

本校では開校以来、この記念日には『開校展』として、児童や保護者、学校職員はじめ、同窓会や地域等、学校に関わる全ての人が一体となって行う、東小の代名詞といえる一大イベントを、毎年欠くことなく行ってきました。今年の開校展式典では、百二十周年の記念事業として、東小の歴史を映像でふり返るとともに、この十年の教育活動、児童の様子、PTA活動等を紹介する「伊那東小の歩み」や、多くの方からの寄付による記念品の披露等を計画しています。

七月十二日には、記念事業の一つとして、全校児童と学校職員で校庭に校章をかたどって、航空写真撮影を行いました。この行事は、当初五月に計画していたものが雨天で六月に延び、さらにその日も雨天で七月に送られました。七月の校庭は太陽がじりじりと照りつけ、カラーシートをかぶって飛行機を待つ時間がとても長く感じられました。

児童が整然と、一年生からじつと待っていた様子は立派でした。天気との相性に恵まれず二度に渡って延期となったことも、この写真を見る毎に記念として思い出すのではないのでしょうか。



九月二十三日には、運動会が行われました。五・六年生の組体操は、「百二十周年の華」と題して、明治三十一年の開校から演技が始まって、百二十年の「私達のふるさと」を技で表現していききました。サッカーワールドカップや高校野球百回大会等、今年の話も織り込み、まさに記念となる演技で今年度の運動会の最後を飾りました。

【のびゆく会・安全見まもり隊】

「のびゆく会」は、「伊那東小学校区教育環境推進協議会」の通称です。平成十年三月に創設され、今年が節目の二十年となります。「あいさつ運動」「声かけ運動」を中心活動として推進していく中、平成十六年三月には、「子どもの安全見まもり隊」が発足しました。現在も七十名の地域の皆様に、毎日の登下校時に、児童の見守りを中心に献身的なご協力をいただいています。

平成十八年には、県警察本部・県防犯協会・伊那防犯協会連合会・伊那警察署から活動が表彰されています。そして、平成二十七年には、「交通安全優良学校表彰」を受賞しました。

この賞は、交通安全教育活動を積極的に推進し、児童生徒の交通安全教育と交通事故防止に顕著な功績があった学校に贈られます。この年、全県で東小が一校のみの受賞となりました。

今年度の取り組みとしては、特に、学区の危険箇所を表した「安全マップ」を伊那警察署の監修も受けて改訂したり、通学路の横断旗の設置や整備を行っている伊那市交通安全協会の活動に協力したりと、より地域との連携を進めていくことができました。

これからも、伊那東小学校がいつも地域に見守られ、支えていただいていることに感謝して、通学路を渡る時には「安全見まもり隊」や地域の皆様に大きな声で元気にあいさつやお礼ができる「東小の子」でありたいと思っています。





宮島小学校

学校ボランティアの皆様と 交流を通して学ぶ

- 学校教育目標
- 一 よく考え、やり抜く子ども
 - 二 仲良くみんなと支え合う子ども
 - 三 いつも明るくじょうぶな子ども

富原小学校信州型コミュニティースクールを「とみがたっ子応援団」と命名していただき、今年度、運営委員会を新たに組織して、本格的に活動を始めました。

学校ボランティアの皆様と多くの学習活動が開かれているところです。

ハンリーブルー栽培活動

四年生が中心となり地元の「青藍会」の皆様と共同で土作りから始まり、種まき、水やりの世話をし、校庭西側の道路に面したフェンス一面にハンリーブルー（アサガオ）を栽培しています。

今年の夏は殊に暑く、少ない人数の四年生にとつて、水やりも大変でしたが

夏休みも毎日欠かさず当番で活動を続けられました。「青藍会」の皆様もそんな四年生の姿を応援していただき、今、見事に咲き誇っています。

夏から秋にかけて道行く人や車で通行する人の目を楽しませてくれています。



学習ボランティアの皆様と共に

基礎学習の定着を図ることを重点に、水曜日の六校時（年間十七回）を「富小タイム」として、地域の学習ボランティアの皆様が教室に入ってきていただき、学習をしています。

今年度は新たに二名参加くださり、三名に見えていたです。ボランティアの方の来るのを楽しみにしている様子で、まるつけをしてもらったり、質問したりしています。ボランティアの方もそんな子どもたちの姿に笑顔で応えてくださっています。



楽しい「読み聞かせ」



毎月一回、朝の時間に読み聞かせボランティアの皆様が各クラスで読み聞かせを行っています。子どもたちは読み聞かせの時間をとても楽しみにしています。秋の読書週間には「全校読み聞かせ」の間にボランティアのみなさんが全員でパネルシアターや動作化を交えて、本の世界へ子どもたちを導いてくださいます。

今後も「しめ縄づくり」「畑作業」等、多くの学校ボランティアの皆様と交流を通して学習活動が展開されていきます。

《登下校時の安心・安全の取組》

えがおみまもり隊の皆さんに登下校時の見守りをしていただくとともに、毎月一回、「挨拶の日」にPTAの方々に登校時、校門で挨拶をしていただいています。笑顔いっぱい挨拶が交わされます。



西箕輪小学校

「地域と共にある学校」

「地域の皆さんと共に学ぶ取組」

「地域に学ぶクラブ活動」

西箕輪小学校では、本年度から「地域の方と共に学ぶ」をテーマにした新しい形のクラブ活動を始めました。

本校では、昨年度まで、子どもたちと職員の希望を中心にクラブ活動の内容を検討していただいていたのですが、本年度は昨年正式に発足した西箕輪コミュニティースクールを活かした「地域の方と一緒に学ぶ活動」に挑戦してみようと決めました。

五月から学校便りや育成会便り等を通じて呼びかけたり、コミュニティースクールのコーディネーターを通じて講師をしてくださる方をお願いしたりしたところ、学校の予想以上に多くの講師の方々にお集まりいただくことができ、たくさんの講座を開設することができました。

今年開設したのは「マレットゴルフ」や「太極拳」「パッチワーク」「木工」「昔の遊び」など十三の講座です。そこに四年生から六年生の子どもたち約二百人がそれぞれの講座に分かれて活動しています。

「昔の遊び」では昔から伝わる「男の子遊び」と「女の子遊び」に挑戦しています。先日は竹を曲げて作った弓とカヤで作った矢を使って射的をしました。段ボール箱にかいた矢が当たると子どもたちは大盛り上がり、男の子も女の子も関係なく矢が的に当たるたびに「やったあ。当たっ



た。」と大歓声をあげていました。

クラブ活動は十月上旬まで続けられ、最後にまとめの会で講師の方々に御礼をする予定です。

【地域の財産を知る職員研修】

本年度は学校職員全員で地域の財産を知ろうと年間通して職員研修を行っています。

「西箕輪探検」と名付けたこの研修は、この地域に伝わる歴史的な建造物や遺跡などについて教職員がよく知ること、子どもたちの生活科や総合的な学習などの授業に活かしていくことが目的です。四月に行った第一回目の西箕輪探検では公民館長の鈴木孝敏先生などを講師に、山の頂上にある古くからの神社・第六天と西箕輪で最古といわれる仲仙寺の見学をしました。第六天の見学を終えた職員は、「子どもたちの話に良く出てくる神社に伝わる歴史を知り、改めて素晴らしい神社とということが認識できた。ぜひ子どもたちに伝えていきたい。」と話していました。



西箕輪探検は八月に第二回目を行い西箕輪の水を巡る歴史について学びました。水を獲得するための先人の苦労に触れることができました。これからも研修を続け、子どもたちの学習に返していきたいと考えています。

【登下校時の安心・安全を確保する取組】

- ① 毎朝夕は地域の「ひまわり隊」による、登下校時の安全指導。
- ② 毎月一の日には保護者による安全指導。
- ③ 毎月一度の教職員による一斉巡回指導。
- ④ 毎月一度の集団登校と、集団下校。
- ⑤ 毎日、学年別下校で安全確認。

